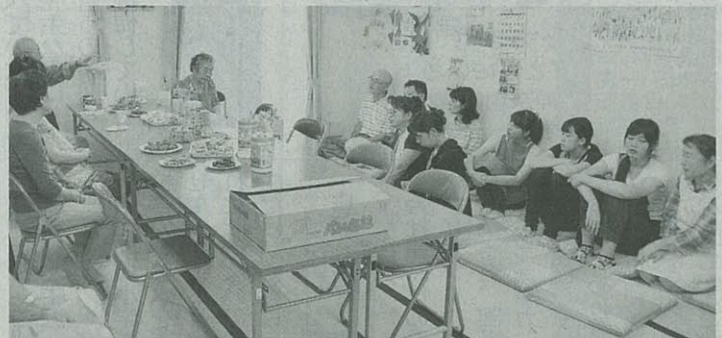
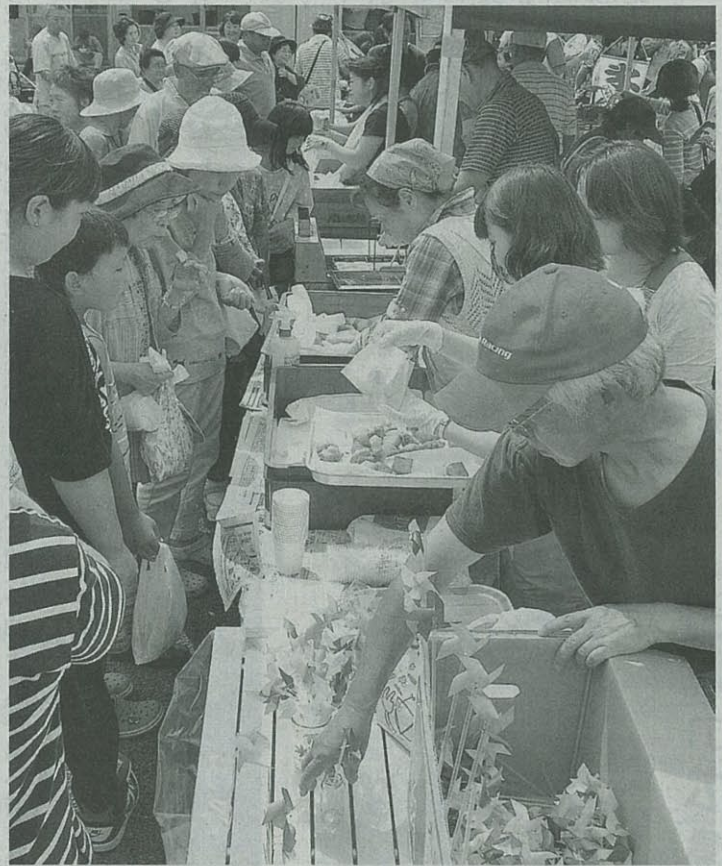


2014年8月31日(日曜日)の読売新聞に 被災地支援が紹介されました。

石巻の夏祭り 被災者と交流

那須塩原の高校生ら



東日本大震災から3年半になるのを前に、那須塩原市などの住民や高校生11人が、津波被害を受けた宮城県石巻市の仮設住宅を訪れて夏祭りに参加し、被災者たちと交流した。

被災者支援に寄付する「パンの耳(3・3)プロジェクト」を行っている那須塩原市の製パン業「パン・アキモト」が、初めて一般市民を募って参加した。

夏祭りは石巻市開成にある仮設開成11団地で開かれ、県立黒磯南高3年赤沢梨花さんらが、社員とともに揚げパンやかき氷を作り、同社の「パンの缶詰」とともに無料で配った。那須塩原市二つ室、吉田久夫さん(64)は手作りの紙製風車約100個を持参、同市東豊浦の山岸恵さん(51)はセラピー犬のトイプードルを連れて参加し、子供やお祭りに喜ばれた。

祭りにには、全国各地から10団体が参加して飲食物を提供、ステージには11団体が出演した。団地管理会の三浦清志代表(66)は「仮設住宅を出る住民も少なくな。夏祭りは今年が最後になるのでは」と話した。

また、参加者たちは、旧北上川べりにある袋谷地東団地で住民から被災直後の様子を聞いた。夫婦で訪れた大田原市本町、飯塚典子さん(43)は、「復興公営住宅に入居するまであと2年もかかると聞いた。仮設住宅での不自由な生活が長引き、大変なことだと思った」と話していた。

栃木

①仮設住宅の夏祭りで揚げパンや風車などを配るボランティア②仮設住宅の集会所で被災者(左)から話を聞く参加者たち(いずれも30日、宮城県石巻市で)